



会長 鈴木 末一

市民活動を維持継続させていくためには、人材、資材、そして、志(資)金が三本柱です。財団や企業などが市民活動団体の活動、とりわけ自然環境活動に対して助成金を提供していただけなかったら、とても十分な活動はできないと言っても過言ではないでしょう。

本会も創立以来今日までの間に多くの財団や企業から助成していただくことができました。

助成金を通しての期待度として、①地域社会への波及効果 ②地域社会への貢献活動などが挙げられます。以前にも書いたことがあります、助成金決定授与式に出席しますと、自然環境活動への企業の意気込みと取り組む姿勢などの理念がにじみ出ているのです。

2月6日、日航ホテル新潟にて開催された第30回コメリ緑資金助成金目録贈呈式に出席しました。当日午前8時30分からリハーサルが行われるので、前泊で出かけました。前夜から吹雪となる悪天候であり、定刻より少し早めに会場のホテルへ。財団の方々と挨拶を交わした後、いよいよプレゼンです。十分にシナリオは考えたつもりでしたが、いざとなると気合いが入りすぎたのか、20分近くになってしまう。本番では10分程度にしなければならぬ。頭を整理していると、理事長が入場して来られた。なんと理事長もリハーサルをされるとのこと。これには驚きました。

財団にとって節目となる記念の式ではありますが、それ以上に助成先の市民団体に、美しい花や緑に囲まれたふるさとづくりを応援する、という財団の理念をしっかりと受け止めてもらいたいとの意気込みの表れだと理解しました。常日ごろ申し上げていることですが、資金は「志金」なのだとの再認識し、助成財団等への感謝の気持ちを忘れてはなりません。

交流会で理事長と暫し歓談、当会の会員数、前歴不問、天声人語のことなどに花咲かせ、重ねて感謝の気持ちを伝え、越後路を後にしました。

いよいよ当会が二十歳の成人式を迎える年が、1年後となってきました。

創立20周年記念事業企画委員会を昨年から発足させ、各種事業について検討してきました。その中の一つとして、草創期から充実期、そして発展期へと力強く歩みを進めていくために、さらには日ごろ、志金(助成金)面でご高配いただいている財団や企業関係、そして、県民の皆様へのご支援への感謝の気持ちとともに、より一層奮励努力するという決意を示すためにも、「キャッチフレーズとロゴマーク」の募集を行いました。

キャッチフレーズ部門では20点、ロゴマーク部門では6点、会員の皆様の心のこもった作品をご応募いただきました。

一次選考として、会員の皆様に投票をお願いし、その結果を受け、企画委員会で協議を重ねました。そして、最終的に幹事会にお諮りをした結果、次の2作品に決定しました。

キャッチフレーズには、

「20年出会い重ねて 広がる未来」を、

ロゴマークには、下のデザインとしました。



記念事業には、記念誌(当会史16年～20年)の編纂、記念講演会、記念研修旅行、記念植樹などを候補にし、それぞれについて細部にわたっての検討を重ねることになっています。

会員の皆様からもご意見をお寄せいただければ幸いです。